

星のたより

2023(令和5)年
10月号
Vol. 349

☆今月の豆知識☆
 ◎く続と打ち上げられる人工衛星。最近「銀河鉄道のような光のつながり」として見られるようになったね。人工衛星って、夕方や明け方によく写るんだって。明け方に撮影チャンスがあった「西村彗星」の時、人工衛星がいっぱい写ってたよ。見えたら神秘的だし、いろいろ便利になるんだけどね。



プラネタリウム100周年

～さじアストロパークでも公認企画開催～

1923年10月21日、ドイツ博物館でカールツァイス社制作の近代的な光学式プラネタリウムが関係者向けに試験公開しました。人々はそれを「イエナの驚異」と絶賛しました。2023年はイエナの驚異から100周年。プラネタリウムの誕生から100周年を記念して、日本プラネタリウム協議会の記念事業が実施されます。これに合わせて、さじアストロパークでは「プラネタリウム100周年展」をおこないます。この展示は「プラネタリウム100周年記念事業公認企画」です。



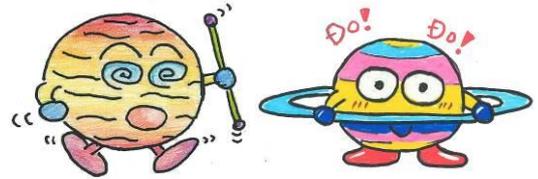
プラネタリウム100周年

プラネタリウム100周年関連の情報は、「日本プラネタリウム協議会(JPA)」内の公式HP「<https://100.planetarium.jp/>」をご覧ください。

巨大4惑星を見よう

～宇宙ふしぎ探検で観察～

見ごろとなっている土星に加え、これから見ごろとなる木星、さらに天王星と海王星を103cm大型望遠鏡で観察します。私たちの太陽系の惑星の大きい順に4つの惑星を見ましょう。



日時：10月28日(土) ①20:00～20:50 ②21:00～21:50
 入館料：一般(高校生以上)600円、小中学生200円、幼児無料

イベント★耳より情報

☆内容や日程が変更となる場合があります。
 公式ホームページで最新情報をご確認ください

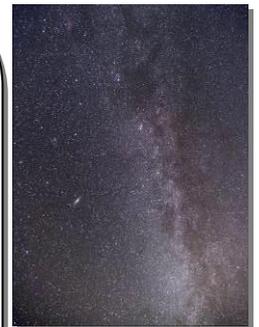
☆期間展示☆ 「プラネタリウム100周年展」9月21日(木)～12月3日(日)
 プラネタリウム100周年記念事業公認企画。プラネタリウム装置の発明から現在に至るまで、展示を通じてその変遷をたどります。

☆プラネタリウム☆ 第1部 専門職員によるライブトーク
 第2部 テーマ番組「星空の水平線」 9月21日(木)～12月17日(日)

☆夜間観望会☆ ☆10月のテーマとおすすめ情報

アンドロメダ銀河、土星	6(金)～8(日)
アンドロメダ銀河、土星	13(金)、14(土)
みずがめ座の星の集まり・M2、土星	20(金)、21(土)
月、土星	27(金)
宇宙ふしぎ探検「巨大4惑星を見よう」(木星、土星、天王星、海王星)	28(土)
観望会で満天の星が楽しめる	5(木)～9(月・祝)、11(水)～15(日)、18(水)、19(木)
観望会で月がよく見える	20(金)～22(日)、24(火)～29(日)

☆10月の休館日 2(月)、10(火)、16(月)、17(火)、23(月)、30(月)



※イベントの詳細やその他の情報はさじアストロパークのホームページなどを参考にしてください。

プラネタリウム & 天体観察会

～「星取県」で昼も夜も星空満喫～

1. プラネタリウム ☆平日3回、土日祝4回投影

さじアストロパークのプラネタリウムは、前半が専門職員によるライブトーク、後半は、テーマ番組を投影しています。前半のライブトークでは、当日夜に見える星空や季節の星座などを紹介しています。

秋のテーマ番組「星空の水平線」

プラネタリウムの後半のテーマ番組が始まりました。古代から現代に至るまでの宇宙観、そして宇宙への航海を始めた私たち人類。この番組では、星空の水平線を目指して皆様をその彼方へご案内します。 投影期間：9月21日(木)～12月17日(日)



プラネタリウム・天体観察会
どちらも定員40名で実施中

2. 103cm大型望遠鏡で夜間観望会(天体観察会)

103cm大型望遠鏡を使った「夜間観望会」で、見ごろの天体を観察しています。月明かりの有無や空の状態により、当日の見ごろの天体が異なります。平日及び日曜日のご利用については、個人の方はご利用日の前の開館日・午後5時まで、団体の方は曜日にかかわらず1カ月前までにご予約の上ご利用ください。

10月の注目天体情報

☆ペガサス座

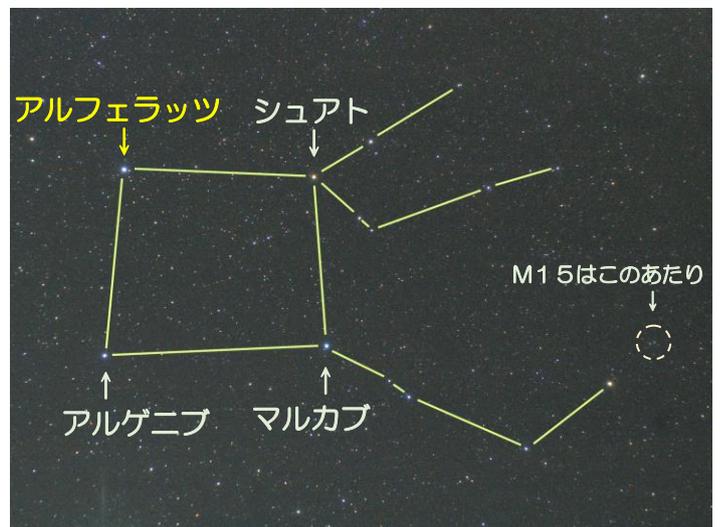
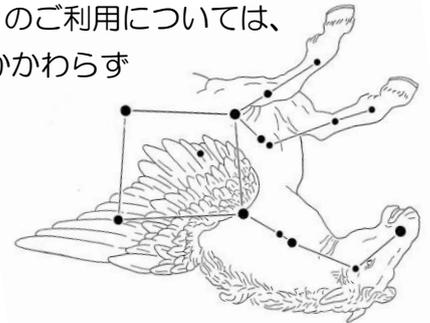
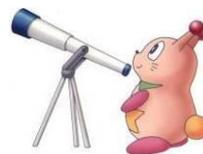
秋の星座をさがす目印として知られているのが、3つの2等星と1つの3等星のあわせて4つの星が四角く並んだ「秋の四辺形」です。西寄りのわりと近くに夏の大三角が見えているため、目立たないかと思われそうですが、秋の星は明るい星が少ないので割と見つかります。この秋の四辺形は、空を飛べる羽をもつ天馬「ペガサス座」のちょうど胴体にあたるため、別名を「ペガサスの四辺形」といいます。

4つの星の内、「馬のへそ」という意味のアルフェラッツは、以前は隣の星座と共有していましたが、現在はアンドロメダ座の頭の星となっています。ほかの3つの星には、マルカブ（馬のくら）、シュアト（足のつけね）、アルゲニブ（つばさ）という名前がついています。

☆ペガサス座にある星団 球状星団 M15

ペガサス座の馬の鼻先にあって探しやすい星団です。肉眼のみでは見えませんが、双眼鏡や小型望遠鏡では周辺が少しぼやけたように見えます。大きな望遠鏡では、星がびっしりと密集した姿に見えて見ごたえがあります。

距離 33,600 光年 見かけの大きさ 約 12 分角 実視等級 6.2 等



プラネタリウム 100周年

今年、近代的なプラネタリウムが誕生して100年になります。それを記念して、期間展示を行います。今回はプラネタリウムについて紹介します。

プラネタリウムとは

天象儀、または惑星儀といいます。様々な時間や場所における星空や天体の運動を、ドーム型のスクリーンに再現する装置です。ドーム内に設置された装置のみでなく、ドームまで含めた設備全体、さらに、それを含む施設全体をプラネタリウムと呼ぶことも一般的です。

プラネタリウムの歴史



近代的な光学式プラネタリウムは、1923年ドイツのCarl Zeiss社で誕生しました。1923年10月21日、ドイツ博物館で関係者向けに試験公開したところ、人々は「イエナの驚異」と絶賛しました。日本では、1937年に大阪の電気科学館(現大阪市立博物館)に設置されました。第二次世界大戦後、日本では、生産を再開したCarl Zeiss社のプラネタリウムが1957年に東京・渋谷の五島プラネタリウム(2001年3月閉館)に、また1960年に

は兵庫県明石市の天文科学館に設置されました。

国内のプラネタリウム

日本で最初にプラネタリウムを開発したのは、1958年に千代田光学精工(株)(のちのコニカミノルタ)が市井の発明家・信岡正典が開発したプラネタリウムを甲子園阪神パークで開催された科学博に出展、この投影機はそのまま常設され、その後福岡、広島などにも設置されていきました。一方、五藤光学研究所は1959年にM-I型投影機を製作しました。また、1998年に大平技研が製作したメガスターは恒星数150万個を再現し、専門家を驚かせました。現在では、五藤光学研究所とコニカミノルタプラネタリウムは、2社を合わせて世界のプラネタリウムの半数近いシェアを抱えるトップメーカーとなっています。

期間展示

期間展示「プラネタリウム100周年展」

期間：2023(R5)年9月21日(木)～12月3日(日)

場所：鳥取市さじアストロパーク・佐治天文台1階ロビー

料金：入館料のみ(高校生以上300円、中学生以下無料)



イベント情報



期間展示「プラネタリウム100周年展」に合わせ、ミニプラネタリウムの工作を行ったあと、本物のプラネタリウムの投影機を詳しく見学します

日時：11月2日(木)、3日(金)、12日(日)、26日(日)

各日13:00～15:45

参加費：大人(高校生以上)600円、小中学生200円(入館料とプラネタリウ

ム観覧料として)

定員：各日5組(20人程度) ※予約が必要です

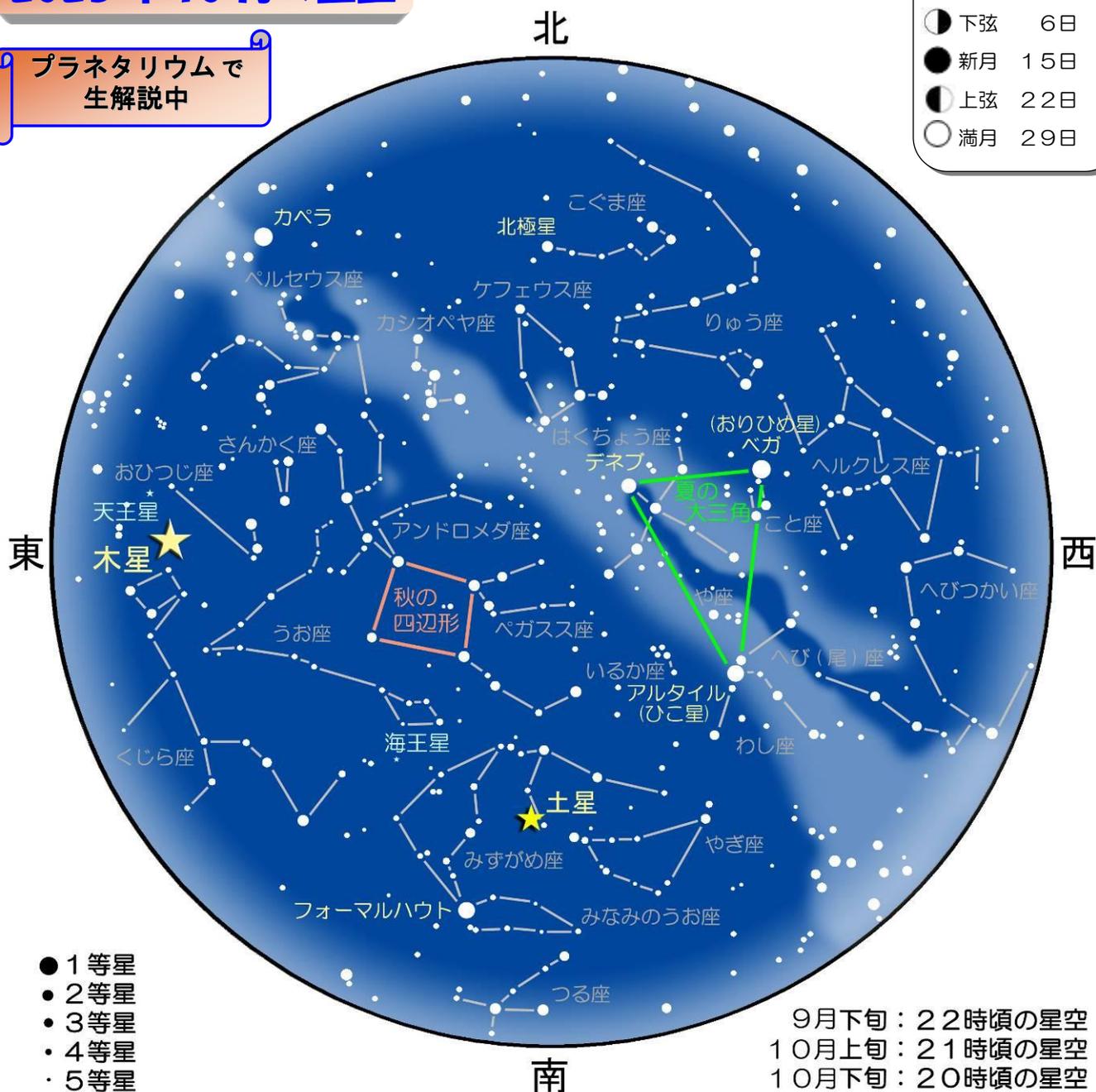
鳥取市さじアストロパーク
鳥取市佐治町高山1071-1
TEL0858-89-1011

2023年10月の星空

10月の月の暦

- ☾ 下弦 6日
- 新月 15日
- ☽ 上弦 22日
- ☾ 満月 29日

プラネタリウムで
生解説中



9月下旬：22時頃の星空
 10月上旬：21時頃の星空
 10月下旬：20時頃の星空

☆10月になると、秋らしい涼しい日が多くなり夜は寒さを感じるほどになります。一枚羽織るものを用意して、温かい服装で星空を楽しみましょう。

☆南の空の少し低いところに明るい星が2つ見えます。上が「土星」、下が南のうお座の1等星「フォーマルハウト」です。土星は目では明るだけの星ですが、望遠鏡で観察すると輪が見えます。東の空には「木星」が昇ってきました。ほかのどの星よりも明るく輝いていますのでよく目立ちます。

☆頭の真上を見上げて、西の空には「夏の大三角」、東の空には「秋の四辺形」が見えています。夏の大三角の3つの星はすべて1等星ですが、秋の四辺形は2等星と3等星ですので見つけにくいですね。正方形のような形をたどってみましょう。土星を目印にするといいかもしれません。



さじアストロパーク

検索

プラネタリウムや観察会の時間、休館日、宿泊の予約など詳しい情報については**ホームページ** & **Facebook** でチェック。Youtube も開設。

鳥取市さじアストロパーク

〒689-1312 鳥取市佐治町高山 1071-1
 TEL 0858-89-1011 FAX 0858-88-0103
 e-mail sj-astro@city.tottori.lg.jp